アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業

1. 提案事業概要

【事業名】	**東アジアにおけるバイオインフォマティクス研究教育共有シンポジウム**
【提案者氏名、役職、機関・部署名】	由良敬、教授・センター長、 国立大学法人お茶の水女子大学・生命情報学教育研究センター
【事業形態】*	（1）国際集会の開催
【実施期間】†	2009 年 12 月 03 日～2009 年 12 月 04 日　（　２日・ヶ月間）
【実施場所】†	お茶の水女子大学構内
【参加国・地域】†	中国、韓国、台湾、ベトナム、タイ、英国、日本　等　　７ヶ国・地域

【事業概要】

ゲノムおよびプロテオーム情報から医学生物学的に重要な情報を抽出するためには、今までの学問領域を越えて、科学の様々な側面に長けた人材が必要とされている。生命情報学（バイオインフォマティクス）はそのような人材の育成を目指した学問分野である。現在アジア諸国では、それぞれの国単位で生命情報学の基盤強化をすすめている。しかし生命情報学分野は、複合科学領域であるために、教育が難しく、需要にあった人材供給が困難になっている。欧米等では国を超えた協力により、優秀な人材を教育する方法を模索し、同時に研究分野を発展させている。アジアでも同様に国を超えた研究教育活動が不可欠である。

そこで本交流事業は、2009年12月3日から4日（予定）に、お茶の水女子大学において、アジア諸国の生命情報学に携わる研究者と教育者を一同に介して、それぞれの研究の最先端を発表する講演会を開催し、これからどのようにしてアジア内の研究教育協力体制を構築するかを検討することを目的とする。 各国それぞれの研究室に所属する博士課程程度の学生も招聘し、シンポジウムで発表すると共に、他国の学生と知り合いになってもらい将来のネットワークを形成する。

生命情報学研究教育の分野では、アジアの中でも日本は比較的先んじていることから、このシンポジウムをきっかけにして、生命情報学を学びたいアジア諸国の学生が日本にくる道が開けると共に、日本の生命情報学教員がアジア諸国で集中講義などを行う機会も生まれてくることが期待できる。お茶の水女子大学では、すでにタイから2名の短期留学生をこの分野で受け入れており、また韓国に教員を派遣して集中講義を行った実績がある。このシンポジウムを通して、お茶の水女子大学のみならず、我が国の多くの研究教育機関で、このようなやりとりを定着させることをめざす。